

日本のものづくりについて考える

—最近の事故・事件・出来事に鑑みて—

(株)アクア勉強会 話題提供

2015.11.24

Shuzo FURUSAKA
(京都大学)

主たる内容

1. はじめに
2. 新国立競技場整備計画経緯検証委員会について
3. 基礎ぐい工事問題に関する対策委員会について
4. 労働三保険未加入問題を含む労働者の処遇改善について
5. おわりに

2

1. はじめに

- ・過去40年程度の間、一貫して日本の建築生産システムの実態に関わる研究をやってきた。
- ・そんな一連の研究の中で、日本のものづくりの特徴のかなりの部分がわかってきた。
- ・さらに、40年の間に建築プロジェクトにおける「発注者」、「設計者」、「施工者」、「技能労働者」の関係のあり様が変わり、建築生産システムの脆弱性が露呈しはじめた。
- ・その結果として、最近とみに建物品質に関わる事故・事件・出来事が顕在化するようになってきた。

3

日本の建築生産システムの特徴

伝統的日本の建築生産システムの特徴

- 相互信頼に基づく簡略化された商習慣
- ・口頭ベースでの契約、黙約
- ・文書化されない契約条項の存在
- 一元請・下請に共通する要求水準の理解
- ・工期を守る
- ・美しく仕上げる
- ・必要ならば残業する
- 各熟練工のプロ意識
- ・OJTでの職業訓練
- ・安くとも最大限の努力を払う／払ってしまう
- ⇒ これらは無意識に、あるいは気質として持ち合わせている
- ⇒ よく言われる空気のようなもの・・・ないし困るが、あっても意識しない
- ▼ これらの日本建築生産システムをうまく活用するノウハウを持っていることが有能なゼネコン、品質確保ができる所以

詳しい勉強会資料の閲覧に関しては「相談室 お問い合わせ」フォームよりご請求ください。
アクアの取り組みなどをご参考いただければ幸いです。